

新任教員研修プログラム対象

学生さんにもおすすめ！

＼新任の先生のご研究をのぞいてみませんか／

人間科学セミナー

2026.

7.16(木)

13:30-14:40

人間科学研究科 北館2F ラーニングcommons

一般
教職員・学生

どなたもご参加
いただけます。



新任教員が研究内容や専門知を紹介するセミナーです。分野を越えた知の交流を通じて連携を促進し、人間科学における分野横断的な視点と「社会学共創」の重要性を学ぶ機会を提供します。



共生学系
グローバル学講座

古賀 勇人 先生

13:30～(講演+質疑応答)



教育学系

齊藤 貴浩 先生

14:00～(講演+討論)

- ・ 指定討論者：渥美公秀 先生(共生学系)
- ・ 討論司会：高橋哲 先生(教育学系)

お申込みは
こちらから



締切7月15日

新任教員研修プログラム(社会学連携能力開発プログラム)としてもご参加いただけます。

左のQRコード、または(<https://forms.cloud.microsoft/r/pMNP4PAUHR>)よりご登録ください。

当日のお申込みは、受付にてご記名ください。



大阪大学大学院人間科学研究科

附属 未来共創センター



mirai-kyoso@hus.osaka-u.ac.jp

古賀 勇人 先生 / 共生学系 グローバル学講座

エネルギー転換における公正性を考える

脱炭素社会に向けたエネルギー転換の必要性は今日、広く認められています。しかし、化石燃料からの脱却を急ぐあまり、その費用や負担が社会全体に公平に分配されるかという問題はなおざりにされがちです。

そもそも日本でも、社会生活に必要なエネルギーを家計の逼迫なしに利用できない世帯（「エネルギー貧困」）が一定数いるとされています。英国をはじめ欧州諸国ではこの問題が広く認識され、対応策の制度化が進んでいます。一方、日本では明示的な政策対応がまだ制度化されていません。こうしたエネルギー貧困の存在も踏まえて、「誰一人取り残さない」（SDGs）ようなエネルギー転換への道筋を考えていく必要があります。

本報告では、「エネルギー貧困」についての研究動向や日本の現状等を紹介しながら、公正なエネルギー転換に向けて何が必要なのかを考えたいと思います。



齊藤 貴浩 先生 / 教育学系

大学は社会を変えている — 社会的インパクト評価と“社会の諸問題の解決”

近年、「社会的インパクト評価」という考え方が注目されています。これは、政策や事業、研究活動などが社会にどのような変化をもたらしたのかを捉え、その成果や課題を今後の改善につなげようとするものです。日本でも2000年前後から政策評価や事業評価の文脈で議論されてきましたが、十分に社会へ浸透してきたとは言えません。一方で近年は、ESG投資やSDGsへの関心の高まりを背景に、社会的価値を「見える化」しようとする動きが広がっています。

本報告では、英国のREFにおける社会的インパクト評価、日本の国立大学法人評価への社会的インパクト導入に向けての動きを踏まえながら、大学が社会に対してどのような役割を果たしているのかを考えます。また、報告者自身が取り組む自己調整学習の視点を取り入れた大学評価の見直し、タイの大学改革、国際バカロレア、プログラミング教育、居場所づくり支援のモデル化などの研究実践も紹介しながら、「大学の教育研究の価値を社会にどう伝え、どう活かしていくのか」について、皆さんと考える機会にしたいと思います。



大阪大学大学院人間科学研究科

附属

未来共創センター



mirai-kyoso@hus.osaka-u.ac.jp